

【資料 3】

志木市高齢者保健福祉計画・
介護保険事業計画（第 8 期）
策定に向けた
アンケート調査結果
概要版

令和 2 年 6 月

志木市

調査概要

1. 調査実施の目的

本調査は、志木市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の改定（第8期計画の策定）を行うにあたり、円滑な計画作成に資するため、各種支援及び関連する業務について、市民の意識・ニーズ等の実態調査を行ったものです。

2. 実施方法及び実施時期

実施方法：返信用封筒を同封のうえ、アンケート調査票を郵送配布、郵送回収

実施時期：【発送】令和2年2月19日（水）

【回収】令和2年3月4日（水）

※在宅介護実態調査については、一部、認定調査員による聞き取り調査。

3. 調査方法と回収状況

（1）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（高齢者に関するアンケート調査）

本調査は、市内在住の65歳以上の方（要介護1～5の方を除く）のうち、3,000人（1圏域600人）を対象として、高齢者の生活実態や生活支援ニーズなどの状況について把握し、今後の高齢者等支援施策の検討に向けた基礎資料を得ることを目的としたアンケート調査を実施したものです。

対象	配布数	回収数	回収率
高齢者に関するアンケート調査	3,000	1,743	58.1%

（2）第2号被保険者向けアンケート調査

本調査は、市内在住の40歳以上65歳未満の方うち、1,000人を対象として、第2号被保険者の生活実態や介護保険制度に関する認知度などについて把握し、今後の高齢者等支援施策の検討に向けた基礎資料を得ることを目的としたアンケート調査を実施したものです。

対象	配布数	回収数	回収率
第2号被保険者向けアンケート調査	1,000	405	40.5%

（3）在宅介護実態調査

本調査は、市内在住の65歳以上の方で、要支援・要介護認定を受けている方のうち、無作為で抽出した1,000人を対象として、在宅介護の実態や生活支援ニーズなどの状況について把握し、今後の高齢者等支援施策の検討に向けた基礎資料を得ることを目的としたアンケート調査を実施したものです。

対象	配布数	回収数	回収率
在宅介護実態調査	1,255	490	39.0%

(4) ケアマネジャー実態調査

本調査は、本市の被保険者を担当している 52 の介護サービス提供事業所と、そこに所属する介護支援専門員（ケアマネジャー）を対象として、介護サービスの利用実態や本市に不足している介護サービス・高齢者サービスに関するご意見・ご要望などについて把握し、今後の介護サービス及び高齢者サービスの充実に向けた基礎資料を得ることを目的としたアンケート調査を実施したものです。

対象	配布数	回収数	回収率
ケアマネジャー実態調査（事業所）	52	29	55.8%
ケアマネジャー実態調査（個人）	156	80	51.3%

(5) 介護サービス事業所調査

本調査は、市内で介護サービスを提供されている 60 事業所（うち、在宅系 40 事業所、施設・居宅 20 事業所）を対象として、サービスの利用実態や事業所の運営に関する状況等を把握し、今後の高齢者福祉行政のあり方等の検討に向けた基礎資料を得ることを目的としたアンケート調査を実施したものです。

対象	配布数	回収数	回収率
介護サービス事業所調査（全体）	60	39	65.0%
介護サービス事業所調査（在宅系）	40	24	60.0%
介護サービス事業所調査（施設・居宅系）	20	15	75.0%

4. 報告書利用上の留意点

・回答者数について

図表中の「n」（Number of Cases の略）は、比率算出の基数であり、100.0%が何人の回答者数に相当するかを示している。

・図表の単位について

本報告書に掲載した図表の単位は、特にことわりのない限り「%」（回答率）を表している。

また、回答率は小数点第 2 位を四捨五入して掲載しているため、合計が 100%にならない場合がある。また、「-」は回答者なし、「0.0」は四捨五入の結果 0.0 との表記になっている。

・図表における選択肢等の記載について

図表の記載にあたっては、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

・単純集計について

単純集計のグラフにおいては、傾向をより分かりやすくするために、選択肢を回答率（%）の高いものから低いものへと並び換えて表示している場合がある。

- ・クロス集計について

クロス結果の帯グラフや表について、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、表側のカテゴリーの件数の合計が全体の件数と一致しないことがある。

- ・コメントについて

分岐のある設問の対象者、あるいはクロス集計の属性等によってnが少なくなる場合がある。nが少ない場合、1人の回答がその属性全体の結果に大きく影響するため、定量的には適切な分析をすることが難しい。このため本報告書では分析軸の項目のうちnが30未満（事業所調査は10未満）と少ない場合、参考値としてコメントで触れていないことがある。

分野ごとの結果分析

調査結果を踏まえ、今後の高齢者等施策を推進するうえでの、検討課題について考えられる事項について分野ごとに整理する。

1 高齢者の健康・各種リスクの状況について

【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査】

本調査では、要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況を把握することで、地域診断に活用し、地域の抱える課題を特定することや介護予防・日常生活支援総合事業の評価に活用するため、国が提示した調査項目を組み込んで実施した。

本項では、『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 実施の手引き』において、リスク把握の考え方を示された項目について、分析を行った。

【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査・問7（1）】

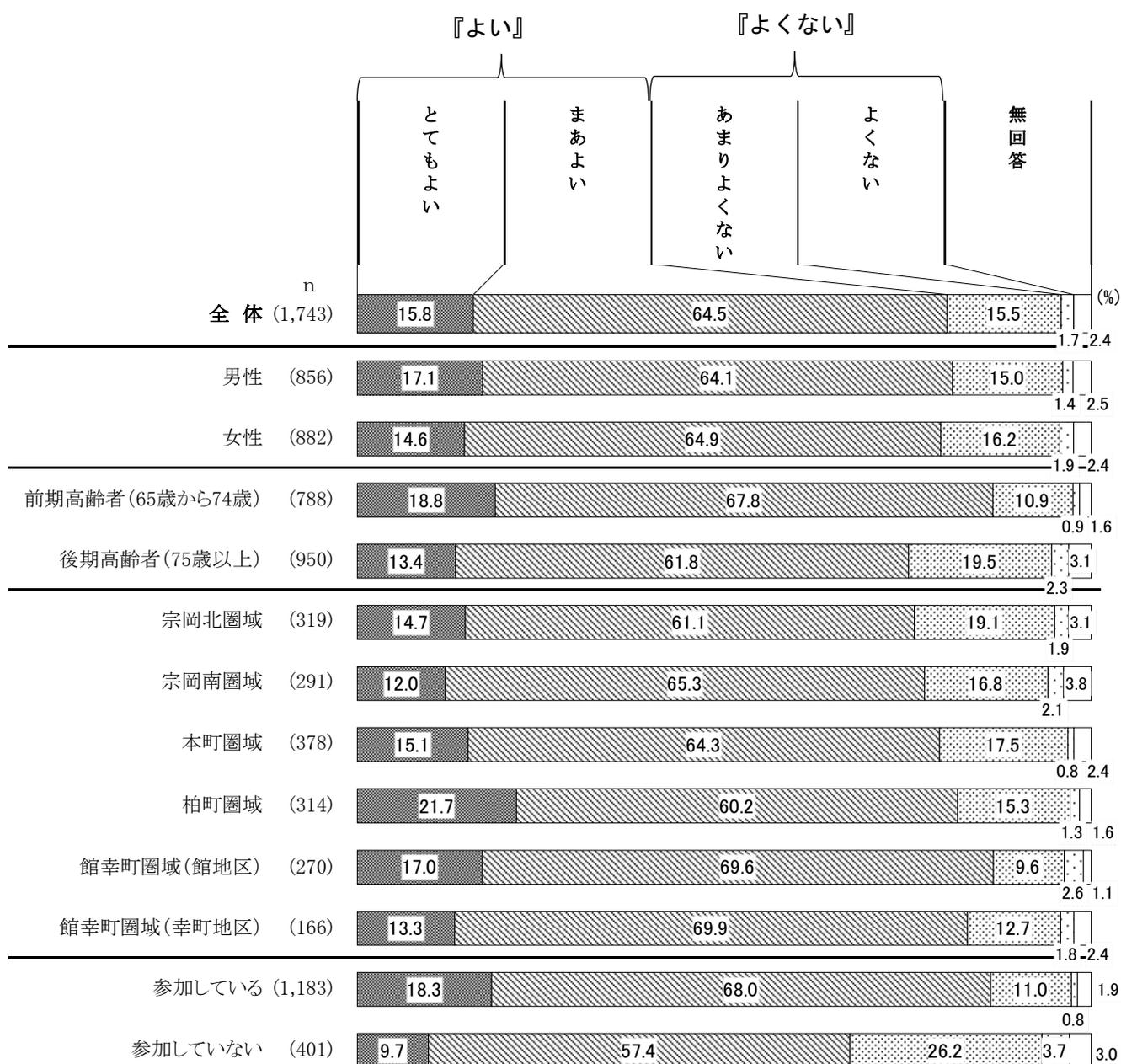
現在の健康状態について聞いたところ、「まあよい」（64.5%）が最も高く、「とてもよい」（15.8%）と合わせた『よい』は80.3%となっている。一方、「あまりよくない」（15.5%）と「よくない」（1.7%）を合わせた『よくない』は17.2%となっている。

性別でみると、大きな差は見られなかった。

年齢別でみると、『よい』については前期高齢者（86.6%）が後期高齢者（75.2%）より11.4ポイント高くなっている。

圏域別でみると、『よい』については館幸町圏域（館地区）（86.6%）が全体に比べて高くなっている。

地域での活動（会・グループ等）に参加しているか否か別でみると、『よい』については参加している（86.3%）が参加していない（67.1%）より19.2ポイント高くなっている。

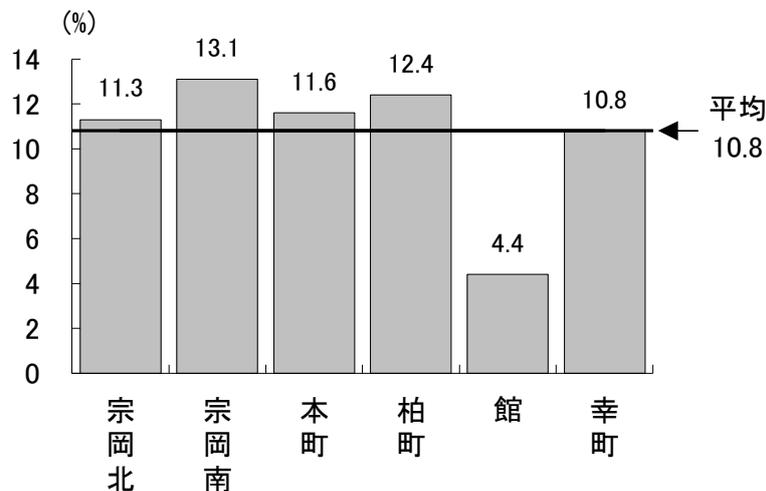


①運動器機能の低下している高齢者割合

- 問2 (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか (「できない」)
 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (「できない」)
 (3) 15分位続けて歩いていますか (「できない」)
 (4) 過去1年間に転んだ経験がありますか (「何度もある」「1度ある」)
 (5) 転倒に対する不安は大きいですか (「とても不安である」「やや不安である」)

上記5つの設問のうち、3問以上で機能低下に該当する選択肢(上記の網掛け部分の選択肢)と回答している場合に「運動器機能の低下あり」と判定しました。

運動器機能の低下している高齢者割合



運動器機能の低下している高齢者割合【性・年齢別】

		調査数	低下している	該当なし	無回答
全体		1743	10.8	86.3	2.9
性・年齢別	男性 前期高齢者	570	3.5	94.4	2.1
	後期高齢者	286	18.2	78.0	3.8
	女性 前期高齢者	218	5.0	92.7	2.3
	後期高齢者	664	15.7	81.0	3.3

運動器機能の低下している高齢者割合の全体平均は10.8%で、圏域別でみると、宗岡南が13.1%と最も高くなっている。

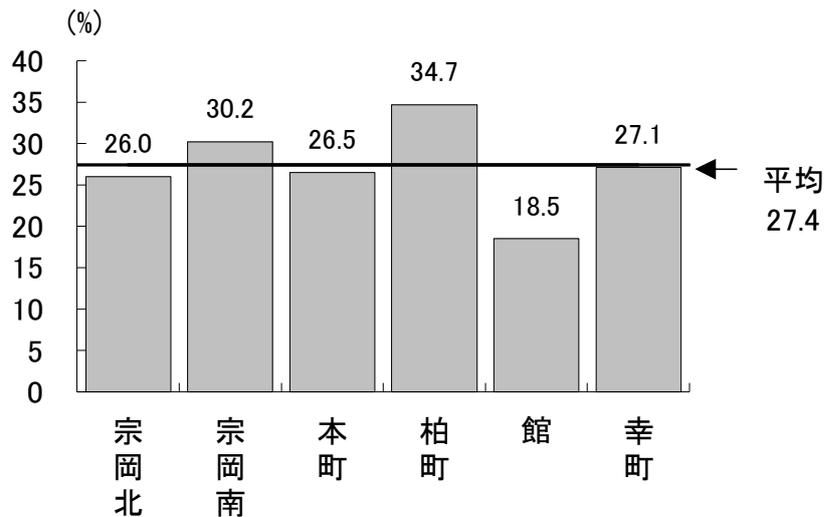
性・年齢別でみると、男女ともに年齢による増加の度合いに大きな差は見られなかった。

②転倒リスクのある高齢者割合

問2 (4) 過去1年間に転んだ経験がありますか。(「何でもある」「1度ある」)

過去1年間の転倒経験で、「何でもある」、「1度ある」と回答している場合、転倒リスクのある高齢者と判定しました。

転倒リスクのある高齢者割合



転倒リスクのある高齢者割合【性・年齢別】

		調査数	ある	該当なし	無回答
全 体		1743	27.4	71.7	1.0
性・年齢別	男性 前期高齢者	570	23.0	76.3	0.7
	後期高齢者	286	32.2	66.4	1.4
	女性 前期高齢者	218	20.6	78.4	0.9
	後期高齢者	664	31.2	67.8	1.1

転倒リスクのある高齢者割合の全体平均は27.4%で、圏域別でみると、柏町が34.7%と最も高く、宗岡南も3割以上と高くなっている。

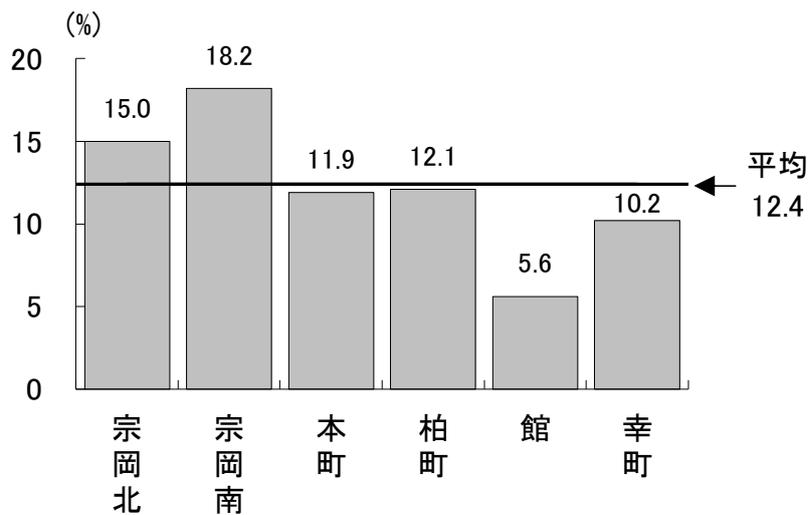
性・年齢別でみると、男女ともに年齢による増加の度合いに大きな差は見られなかった。

③閉じこもり傾向のある高齢者割合

問3 (6) 週に1回以上は外出していますか (「ほとんど外出しない」「週1回」)

一週間の外出状況で「ほとんど外出しない」または「週1回」と回答している場合に、閉じこもり傾向のある高齢者と判定しました。

閉じこもり傾向のある高齢者割合



閉じこもり傾向のある高齢者割合【性・年齢別】

		調査数	ある	該当なし	無回答
全 体		1743	12.4	86.2	1.4
性・年齢別	男性 前期高齢者	570	7.5	91.6	0.9
	後期高齢者	286	17.1	80.8	2.1
	女性 前期高齢者	218	10.1	89.4	0.5
	後期高齢者	664	15.4	82.8	1.8

閉じこもり傾向のある高齢者割合の全体平均は12.4%で、圏域別で見ると、宗岡南が18.2%、宗岡北が15.0%と高くなっている。

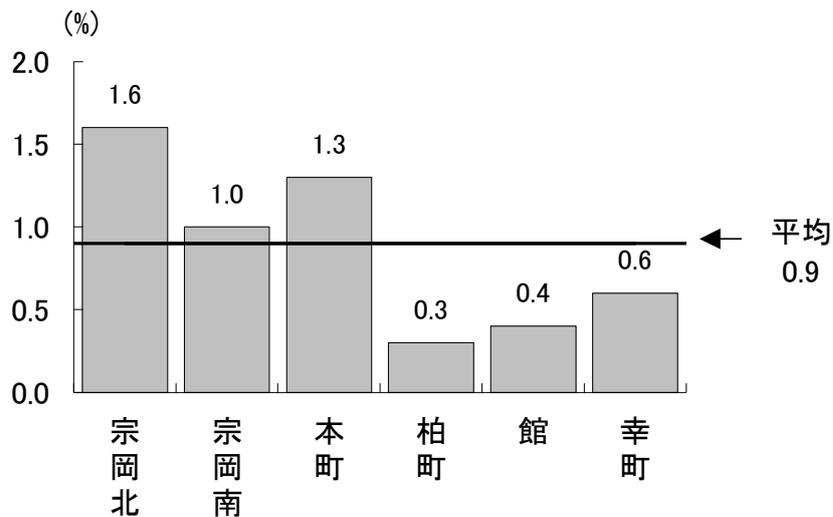
性・年齢別で見ると、男女ともに年齢による増加の度合いに大きな差は見られなかった。

④低栄養状態にある高齢者割合

問3 (1) 身長・体重 (BMI (体重 kg ÷ (身長 m × 身長 m)) 18.5 未満)
 (7) 6 か月間で 2 ~ 3 kg 以上の体重減少がありましたか (「はい」)

身長と体重から算出されるBMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が、18.5 未満の場合に低栄養が疑われる高齢者となり、かつ、直近の6 か月間に 2 ~ 3 kg 以上の体重減少があった場合に「低栄養状態」と判定しました。

低栄養状態にある高齢者割合



低栄養状態にある高齢者割合【性・年齢別】

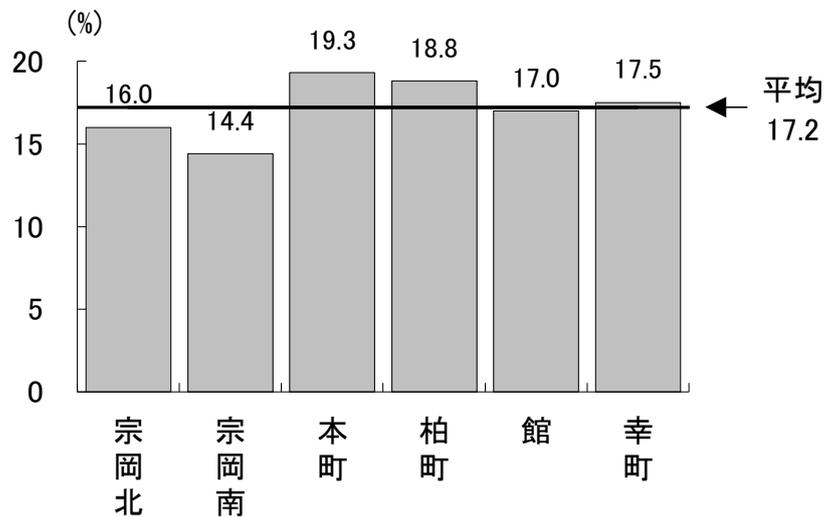
		調査数	ある	該当なし	無回答
全 体		1743	0.9	97.2	1.8
性・年齢別	男性 前期高齢者	570	0.7	98.4	0.9
	後期高齢者	286	2.1	95.1	2.8
	女性 前期高齢者	218	1.4	98.2	0.5
	後期高齢者	664	0.5	96.8	2.7

低栄養状態にある高齢者割合の全体平均は 0.9% で、圏域別で見ると、宗岡北が 1.6% と最も高くなっている。

性・年齢別で見ると、男女ともに年齢による増加の度合いに大きな差は見られなかった。

※参考：厚生労働省『健康日本 21』の方針において、「低栄養傾向」（BMI 20.0 未満）とされる高齢者割合

「低栄養傾向」にある高齢者割合



「低栄養傾向」にある高齢者割合【性・年齢別】

		調査数	ある	該当なし	無回答
全 体		1743	17.2	77.6	5.2
性・年齢別	男性 前期高齢者	270	16.3	81.2	2.5
	後期高齢者	286	17.1	75.9	7
	女性 前期高齢者	218	18.8	76.1	5
	後期高齢者	664	17.6	75.5	6.9

低栄養状態にある高齢者割合の全体平均は 17.2%で、圏域別で見ると、本町が 19.3%と最も高くなっている。

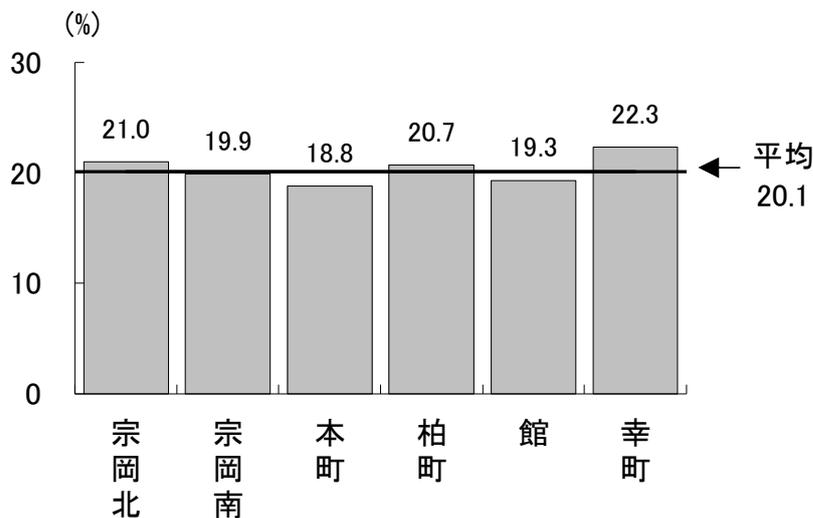
性・年齢別で見ると、男性は年齢による増加が見られるのに対し、女性は年齢により減少傾向が見られる。

⑤口腔機能の低下している高齢者割合

- 問3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか (「はい」)
 (3) お茶や汁物等でむせることがありますか (「はい」)
 (4) 口の渇きが気になりますか (「はい」)

「Q 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」の設問で「はい」と回答した場合に、「咀嚼機能の低下が疑われる高齢者」と判定しました。さらに「Q お茶や汁物等でむせることがありますか」と「Q 口の渇きが気になりますか」を加えた3設問のうち2設問で「はい」と回答した場合に「口腔機能の低下あり」と判定しました。

口腔機能の低下している高齢者割合



口腔機能の低下している高齢者割合【性・年齢別】

		調査数	低下している	該当なし	無回答
全体		1743	20.1	77.2	2.7
性・年齢別	男性 前期高齢者	570	15.1	83.7	1.2
	後期高齢者	286	25.2	71.0	3.8
	女性 前期高齢者	218	11.9	87.2	0.9
	後期高齢者	664	25.0	70.9	4.1

口腔機能の低下している高齢者割合の全体平均は20.1%で、圏域別で見ると、幸町が22.3%と最も高く、次いで宗岡北が21.0%となっている。

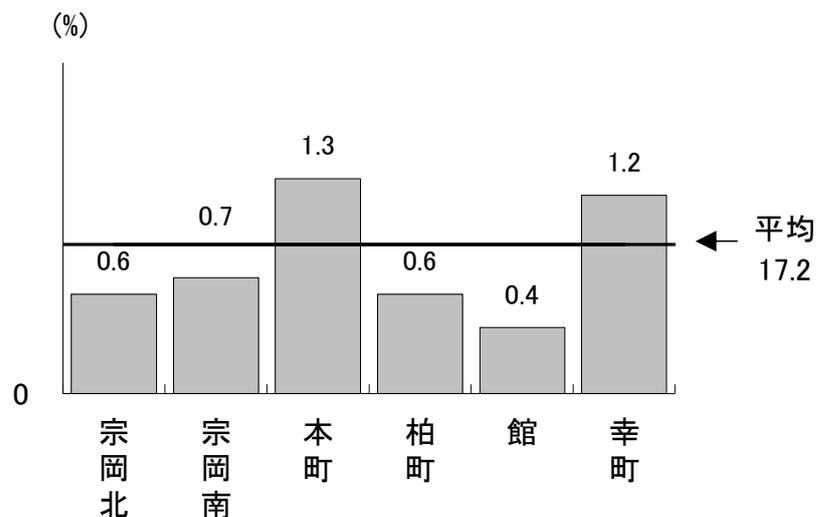
性・年齢別で見ると、男女ともに年齢による増加の度合いに大きな差は見られなかった。

※参考：(独自指標) 口腔セルフケアの状況

問3 (5) 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか(いいえ)
 (6) ②毎日入れ歯の手入れをしていますか(「いいえ」)

「Q 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか」と「Q 毎日入れ歯の手入れをしていますか」の2つの設問で両方とも「いいえ」が回答された場合、「口腔セルフケアにリスクあり」と判定しました。

口腔セルフケアにリスクのある高齢者割合



口腔セルフケアにリスクのある高齢者割合【性・年齢別】

		調査数	低下している	該当なし	無回答
全 体		1743	0.9	98.5	0.6
性・年齢別	男性 前期高齢者	570	0.7	98.9	0.4
	後期高齢者	286	1	97.6	1.4
	女性 前期高齢者	218	-	99.5	0.5
	後期高齢者	664	1.1	98.3	0.6

口腔機能の低下している高齢者割合の全体平均は0.9%で、圏域別でみると、本町が1.3%と最も高く、次いで幸町が1.2%となっている。

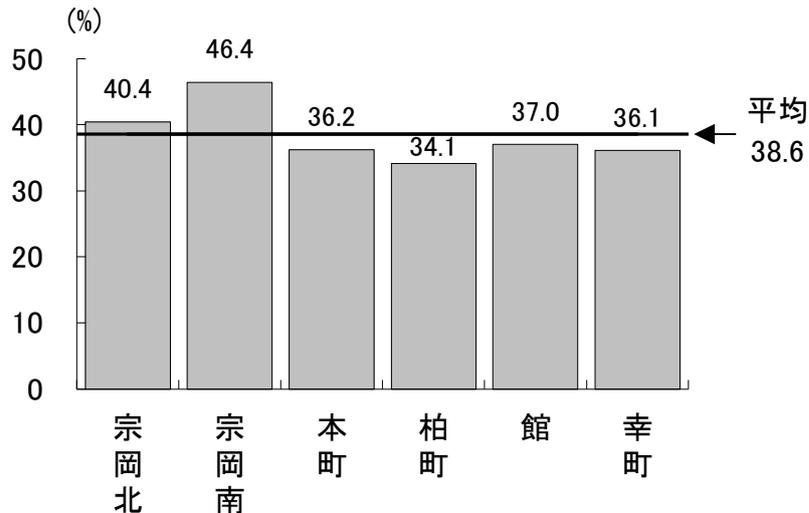
性・年齢別でみると、男女ともに年齢による増加の度合いに大きな差は見られなかった。

⑥認知機能の低下している高齢者割合

問4 (1) 物忘れが多いと感じますか (「はい」)

認知機能については、「はい」と回答している場合、「認知機能の低下あり」と判定しました。

認知機能の低下している高齢者割合



認知機能の低下している高齢者割合【性・年齢別】

		調査数	低下している	該当なし	無回答
全 体		1743	38.6	58.7	2.8
性・年齢別	男性 前期高齢者	570	31.2	66.8	1.9
	後期高齢者	286	46.5	50.0	3.5
	女性 前期高齢者	218	33.9	63.8	2.3
	後期高齢者	664	42.6	54.1	3.3

認知機能の低下している高齢者割合の全体平均は38.6%で、圏域別で見ると、宗岡南が46.4%、宗岡北が40.4%、と高くなっている。

性・年齢別で見ると、男性は女性よりも年齢による増加の割合が高くなっている。

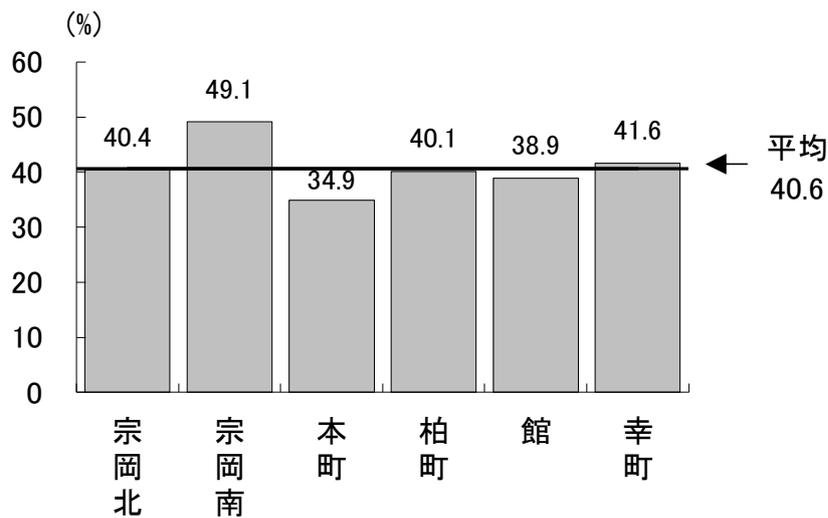
⑦うつ傾向がある高齢者割合

問7 (3) この1か月間、気分が沈んだり、憂うつな気持ちになったりすることがありましたか（「はい」）

(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか（「はい」）

うつ傾向については、2つの設問でいずれか1つでも「はい」が回答された場合、「うつ傾向あり」と判定しました。

うつ傾向がある高齢者割合



うつ傾向がある高齢者割合【性・年齢別】

		調査数	ある	該当なし	無回答
全 体		1743	40.6	55.5	4.0
性・年齢別	男性 前期高齢者	570	36.0	60.9	3.2
	後期高齢者	286	43.0	53.8	3.1
	女性 前期高齢者	218	44.5	52.3	3.2
	後期高齢者	664	42.0	52.7	5.3

うつ傾向がある高齢者割合の全体平均は40.6%で、圏域別で見ると宗岡南が49.1%と最も高くなっている。幸町、宗岡北、柏町も4割以上と高くなっている。

性・年齢別で見ると、男性は女性よりも年齢による増加の割合が高くなっている。

⑧手段的日常生活動作（IADL）の低下している高齢者割合

問4（4）バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）
（「できるし、している」）

（5）自分で食品・日用品の買物をしていますか（「できるし、している」）

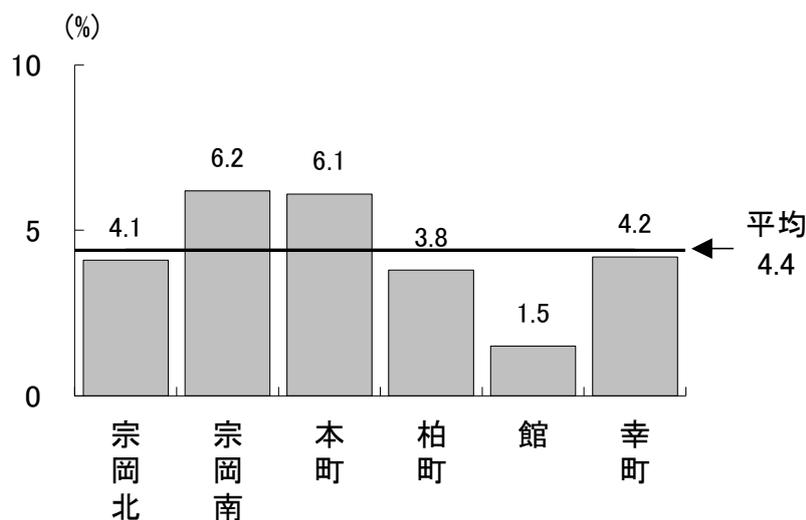
（6）自分で食事の用意をしていますか（「できるし、している」）

（7）自分で請求書の支払いをしていますか（「できるし、している」）

（8）自分で預貯金の出し入れをしていますか（「できるし、している」）

各設問について、「できるし、している」か「できるけどしていない」を1点、「できない」を0点と点数化し、5つの設問の合計を判定します。判定の区分は5点が「高い」、4点が「やや低い」、0～3点が「低い」となり、「3点以下」は『IADLの低下している高齢者』と判定しました。

手段的日常生活動作（IADL）の低下している高齢者割合



手段的日常生活動作（IADL）の低下している高齢者割合【性・年齢別】

		調査数	低い	やや低い	高い	無回答
全体		1743	4.4	6.7	86.7	2.2
性・年齢別	男性 前期高齢者	570	1.6	7.5	89.5	1.4
	後期高齢者	286	10.8	13.3	72.0	3.8
	女性 前期高齢者	218	1.4	0.9	96.3	1.4
	後期高齢者	664	5.1	4.8	87.5	2.6

手段的日常生活動作（IADL）の低下している高齢者割合の全体平均は4.4%で、圏域別でみると、宗岡南が6.2%で最も高く、次いで本町で6.1%となっている。

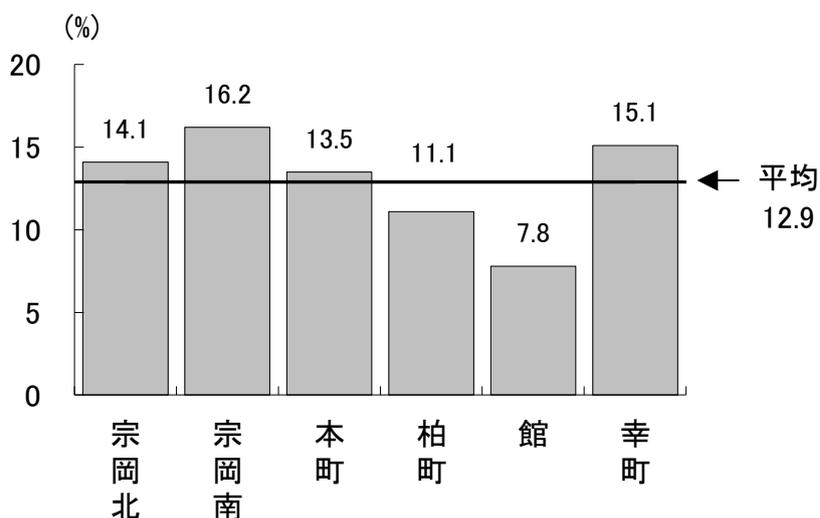
性・年齢別でみると、男性は女性よりも年齢による増加の割合が高くなっている。

⑨社会参加・知的能動性の低下している高齢者割合

- 問4 (9) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。（「はい」）
 (10) 新聞を読んでいますか。（「はい」）
 (11) 本や雑誌を読んでいますか。（「はい」）
 (12) 健康についての記事や番組に関心がありますか。（「はい」）

各設問について、「はい」を1点、「いいえ」を0点と点数化し、4つの設問の合計を判定します。判定の区分は4点が「高い」、3点が「やや低い」、0～2点が「低い」となり、「2点以下」は『社会参加・知的能動性の低下している高齢者』と判定しました。

社会参加・知的能動性の低下している高齢者割合



社会参加・知的能動性の低下している高齢者割合【性・年齢別】

		調査数	低い	やや低い	高い	無回答
全体		1743	12.9	21.2	62.8	3.2
性・年齢別	男性 前期高齢者	570	12.5	22.5	62.5	2.6
	後期高齢者	286	18.9	23.4	53.8	3.8
	女性 前期高齢者	218	11.0	22.5	65.1	1.4
	後期高齢者	664	11.3	18.5	66.1	4.1

社会参加・知的能動性の低下している高齢者割合の全体平均は12.9%で、圏域別でみると、宗岡南が16.2%で最も高く、次いで幸町で15.1%となっている。

性・年齢別でみると、女性はほぼ変化が見られないのに対し、男性は女性よりも年齢による増加の割合が高くなっている。

⑩社会的役割の低下している高齢者割合

問4 (13) 友人の家を訪ねていますか。(「はい」)

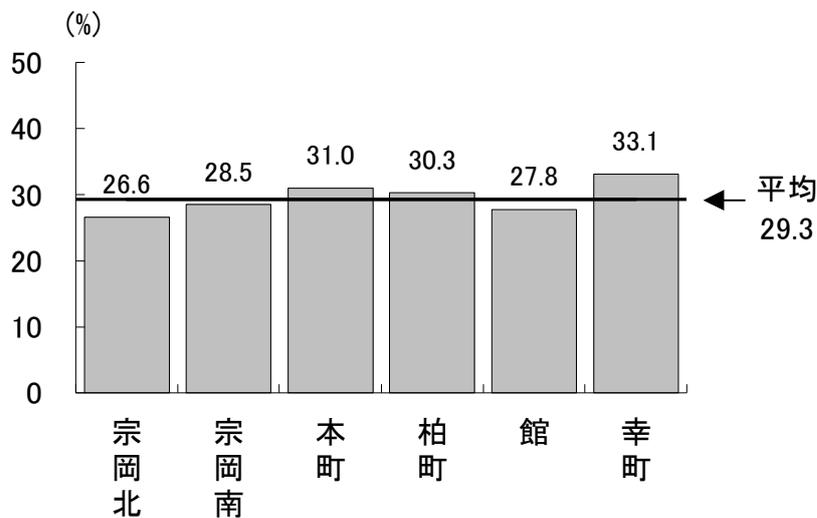
(14) 家族や友人の相談にのっていますか。(「はい」)

(15) 病人を見舞うことができますか。(「はい」)

(16) 若い人に自分から話しかけることがありますか。(「はい」)

各設問について、「はい」を1点、「いいえ」を0点と点数化し、4つの設問の合計を判定します。判定の区分は4点が「高い」、3点が「やや低い」、0～2点が「低い」となり、「2点以下」は『社会的役割の低下している高齢者』と判定しました。

社会的役割の低下している高齢者割合



社会的役割の低下している高齢者割合【性・年齢別】

		調査数	低い	やや低い	高い	無回答
全体		1743	29.3	29.9	36.1	4.6
性・年齢別	男性 前期高齢者	570	28.4	38.1	31.2	2.3
	後期高齢者	286	36.0	27.6	29.7	6.6
	女性 前期高齢者	218	20.6	29.4	45.9	4.1
	後期高齢者	664	30.1	24.1	39.8	6.0

社会的役割の低下している高齢者割合の全体平均は29.3%で、圏域別でみると、幸町が33.1%で最も高く、次いで本町31.0%となっている。

性・年齢別でみると、男女ともに年齢による増加の度合いに大きな差は見られなかった。

⑪老研指標総合評価の低下している高齢者割合

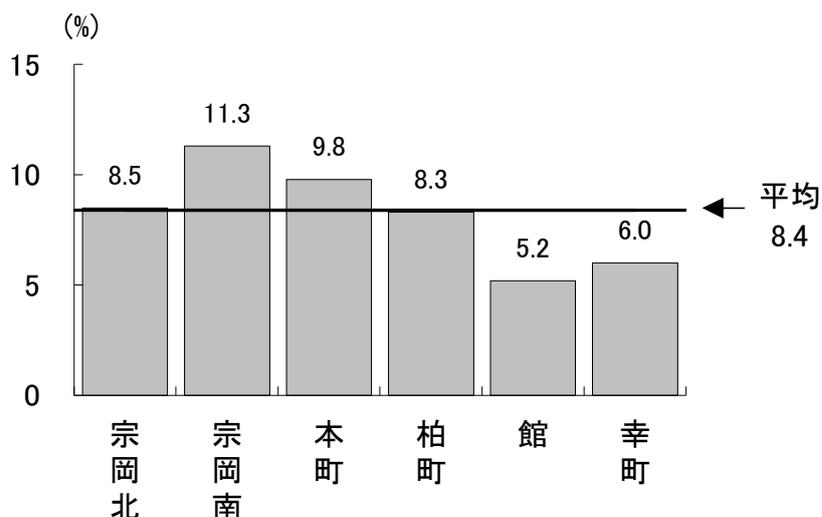
⑧手段的日常生活動作（IADL）の低下している高齢者割合

⑨社会参加・知的能動性の低下している高齢者割合

⑩社会的役割の低下している高齢者割合

上記の各指標における点数の合計を判定します。判定の区分は11以上点が「高い」、9～10点が「やや低い」、8点以下が「低い」となり、「8点以下」は『老研指標総合評価の低下している高齢者』と判定しました。

老研指標総合評価の低下している高齢者割合



老研指標総合評価の低下している高齢者割合【性・年齢別】

		調査数	低い	やや低い	高い	無回答
全体		1743	8.4	17.0	67.4	7.1
性・年齢別	男性 前期高齢者	570	6.1	20.2	69.8	3.9
	後期高齢者	286	16.8	15.7	58.4	9.1
	女性 前期高齢者	218	5.5	12.8	76.1	5.5
	後期高齢者	664	7.8	16.1	66.4	9.6

老研指標総合評価の低下している高齢者割合の全体平均は8.4%で、圏域別でみると宗岡南が11.3%で最も高く、次いで本町9.3%となっている。

性・年齢別でみると、男性は女性よりも年齢による増加の割合が高くなっている。

2 今後の高齢者施策について

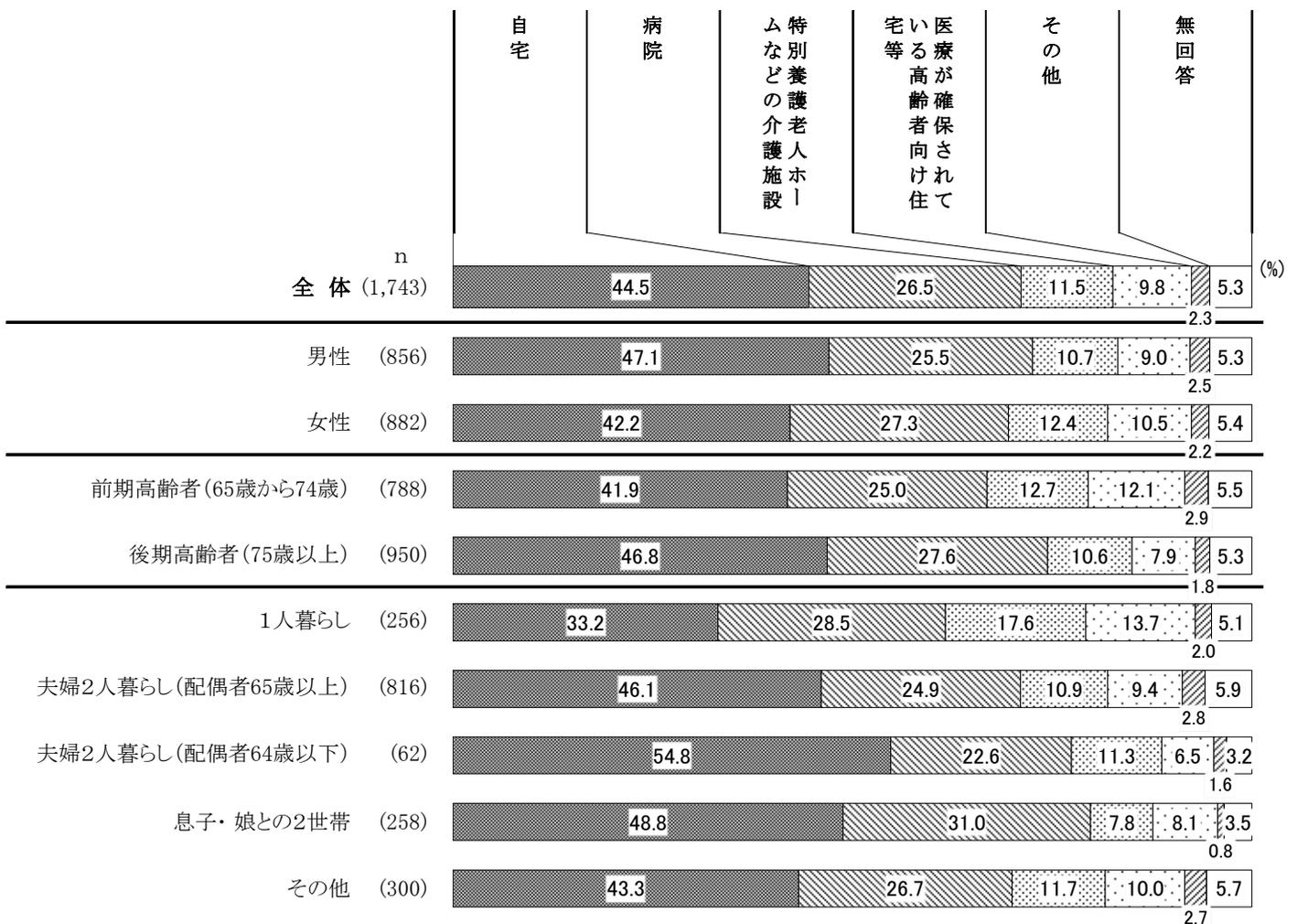
【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査・問9（5）】

一般高齢者に対し、人生の最期を迎えようとする時、最期を迎えたい場所について聞いたところ、「自宅」（44.5%）が最も高かった。以下、「病院」（26.5%）、「特別養護老人ホームなどの介護施設」（11.5%）、「医療が確保されている高齢者向け住宅等」（9.8%）となっている。

性別でみると、大きな差は見られなかった。

年齢別でみると、大きな差は見られなかった。

家族構成別でみると、「自宅」については夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）（54.8%）が全体に比べて高くなっている。一方、「特別養護老人ホームなどの介護施設」については1人暮らし（17.6%）が全体に比べて高くなっている。



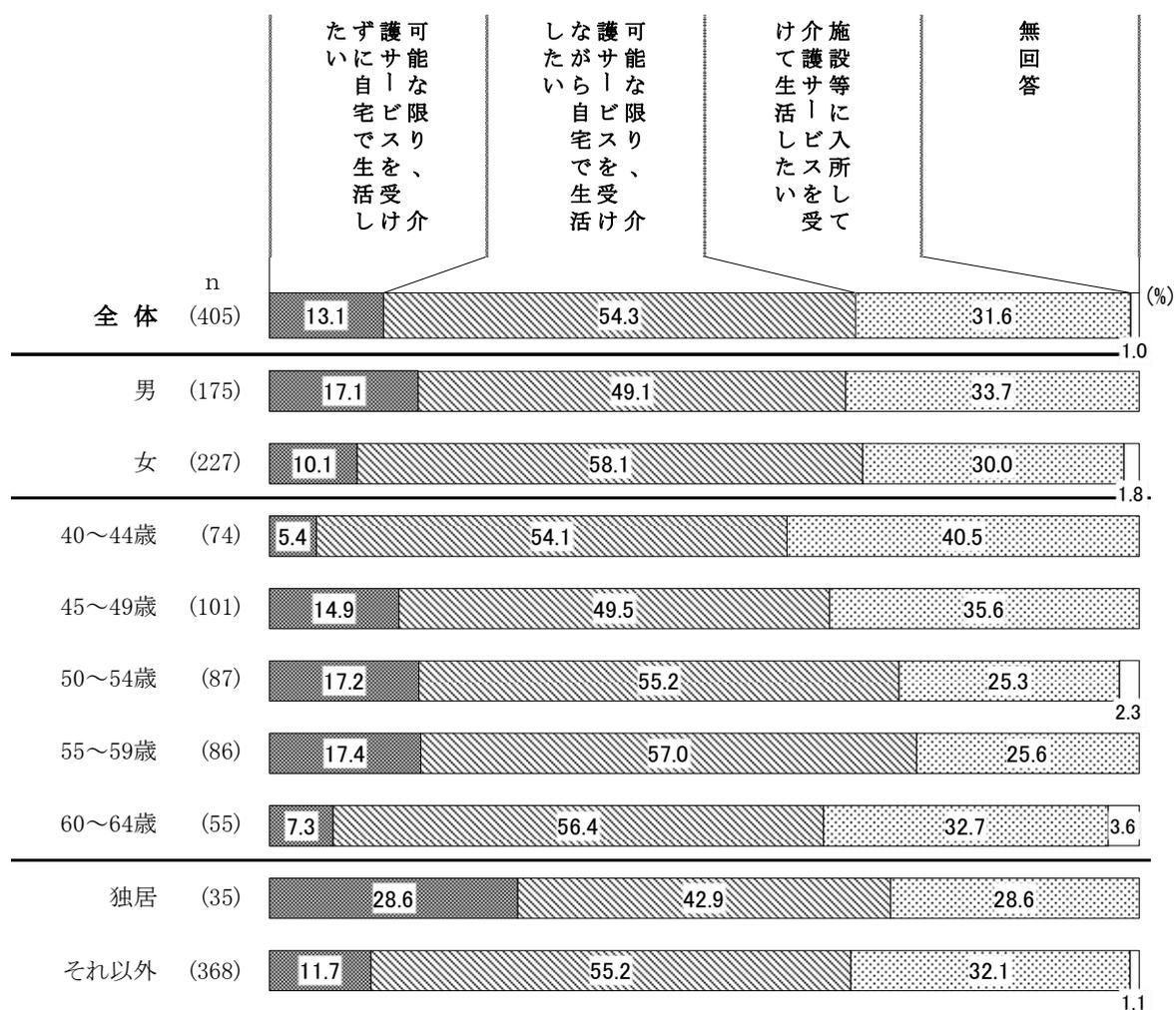
【第2号被保険者向けアンケート調査・問3（1）】

第2号被保険者に対し、将来、自分に介護が必要となった場合、現時点での考えについて聞いたところ、「可能な限り、介護サービスを受けながら自宅で生活したい」（54.3%）が最も高かった。以下、「施設等に入所して介護サービスを受けて生活したい」（31.6%）、「可能な限り、介護サービスを受けずに自宅で生活したい」（13.1%）となっている。

性別でみると、「可能な限り、介護サービスを受けながら自宅で生活したい」については女性（58.1%）が男性（49.1%）より9.0ポイント高くなっている。一方、「可能な限り、介護サービスを受けずに自宅で生活したい」については男性（17.1%）が女性（10.1%）より7.0ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「施設等に入所して介護サービスを受けて生活したい」については40～44歳（40.5%）が全体に比べて高くなっている。

家族構成別でみると、「可能な限り、介護サービスを受けずに自宅で生活したい」については独居（28.6%）がそれ以外（17.1%）より11.5ポイント高くなっている。



【在宅介護実態調査・問9】

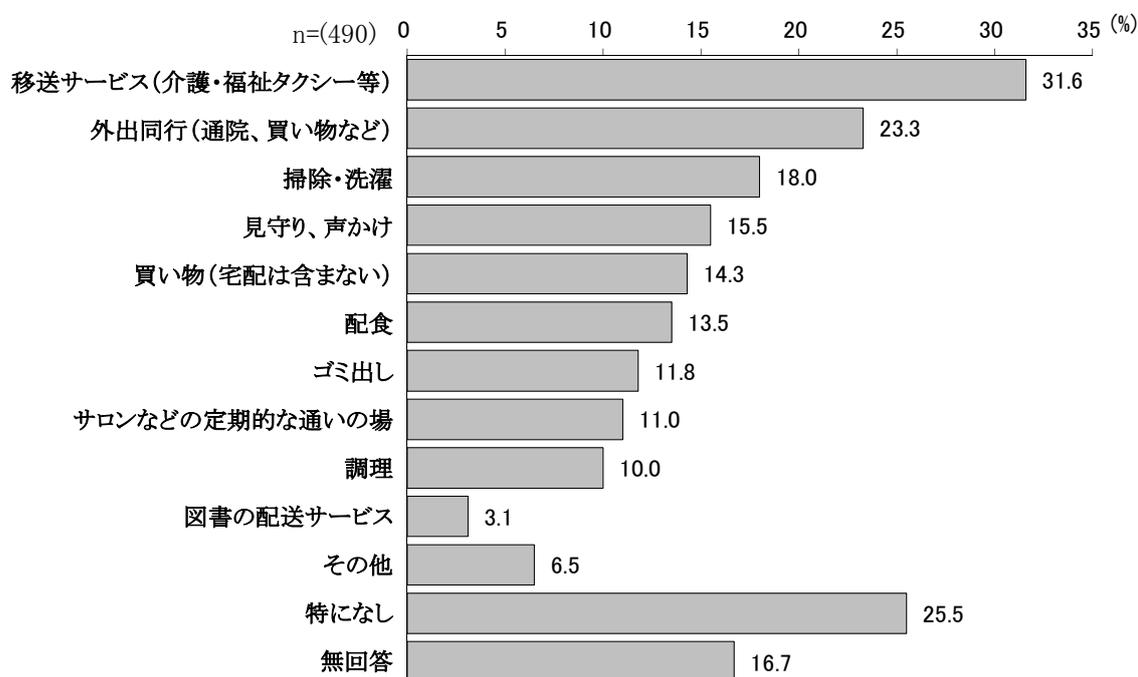
被介護者に対し、今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて聞いたところ、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（31.6%）が最も高かった。以下、「外出同行（通院、買い物など）」（23.3%）、「掃除・洗濯」（18.0%）、「見守り、声かけ」（15.5%）となっている。

被介護者の性別で見ると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」については男性（40.1%）が女性（26.9%）より13.2ポイント、「掃除・洗濯」については男性（23.3%）が女性（15.6%）より7.7ポイント、「外出同行（通院、買い物など）」については男性（27.9%）が女性（21.1%）より6.8ポイント、「買い物（宅配は含まない）」については男性（18.6%）が女性（12.6%）より6.0ポイント、「見守り、声かけ」については男性（19.2%）が女性（13.6%）より5.6ポイント高くなっている。一方、「特になし」については女性（27.6%）が男性（20.9%）より7.6ポイント高くなっている。

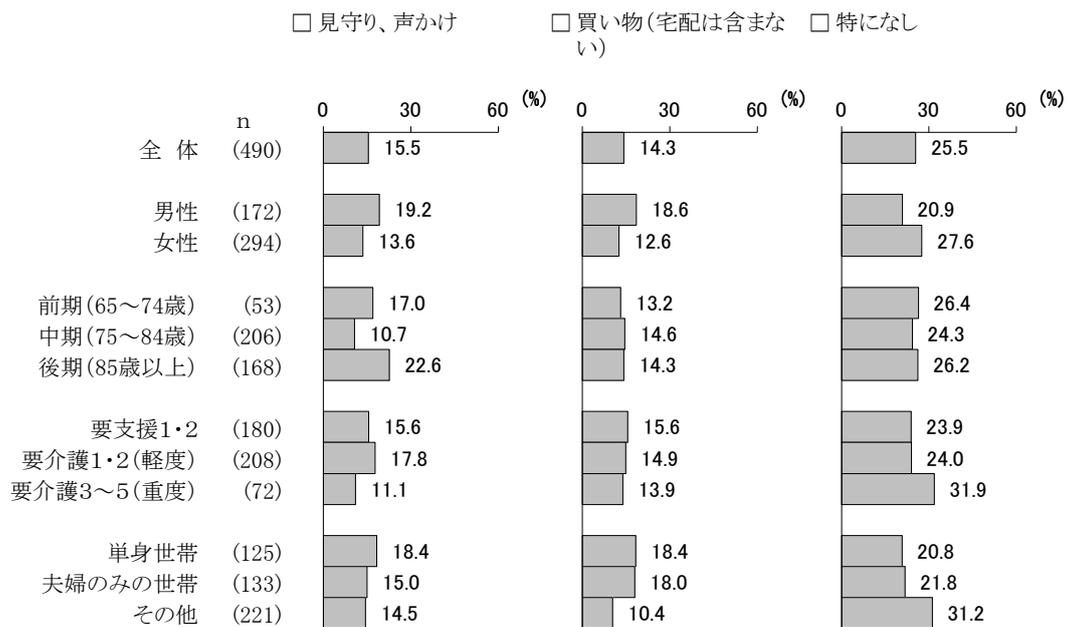
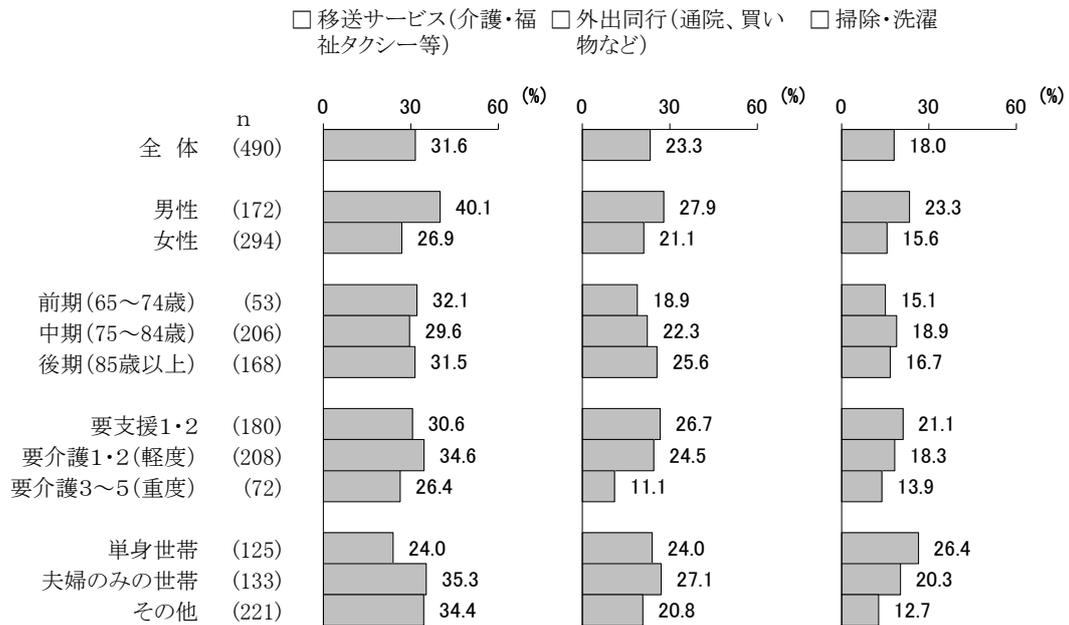
被介護者の年齢別で見ると、「見守り、声かけ」については後期高齢者（22.6%）が全体に比べて高くなっている。

被介護者の要介護度別で見ると、「特になし」については要介護3～5（31.5%）が全体に比べて高くなっている。

被介護者の世帯類型別で見ると、「特になし」についてはその他（31.2%）が全体に比べて高くなっている。一方、「掃除・洗濯」については単身世帯（26.4%）が全体に比べて高くなっている。

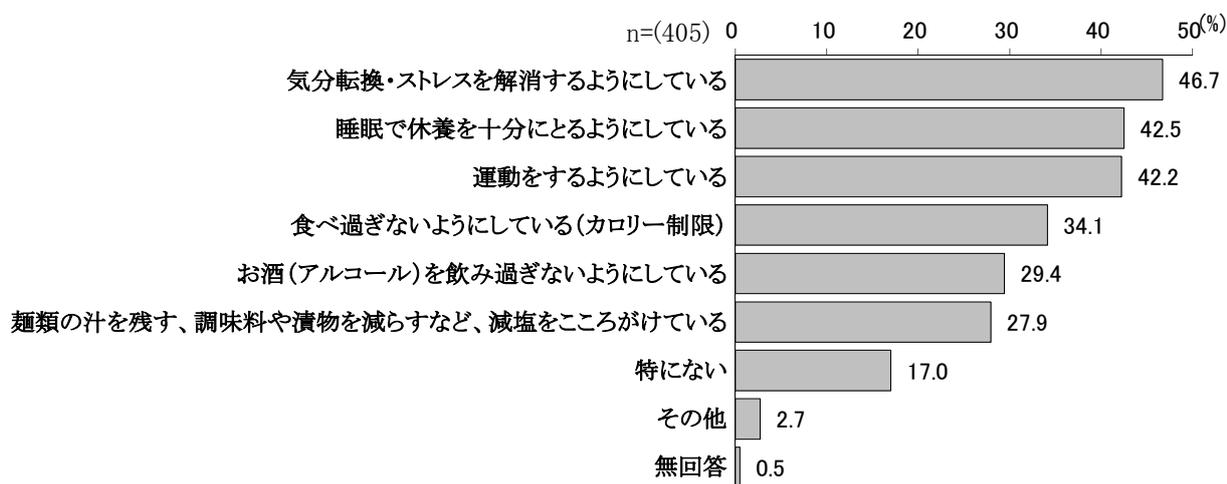


【被介護者の性／被介護者の年齢／被介護者の要介護度／被介護者の世帯類型別 上位6項目】



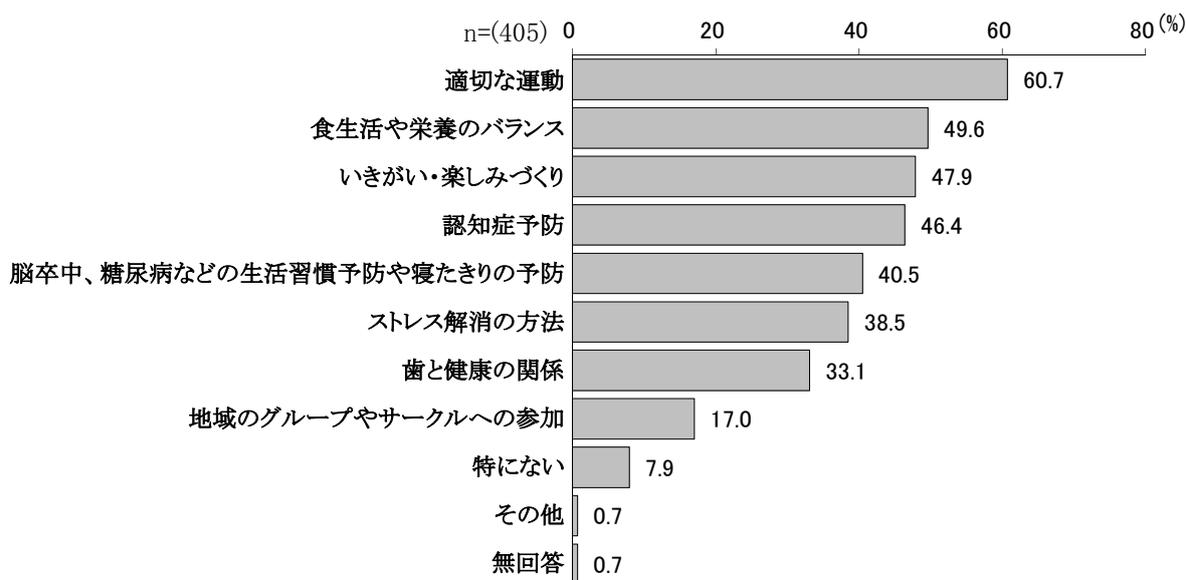
【第2号被保険者向けアンケート調査・問4（1）】

第2号被保険者に対し、介護が必要にならないために、日常生活で心がけている生活習慣について聞いたところ、「気分転換・ストレスを解消するようにしている」（46.7%）が最も高かった。以下、「睡眠で休養を十分にとるようにしている」（42.5%）、「運動をするようにしている」（42.2%）、「食べ過ぎないようにしている（カロリー制限）」（34.1%）となっている。



【第2号被保険者向けアンケート調査・問4（2）】

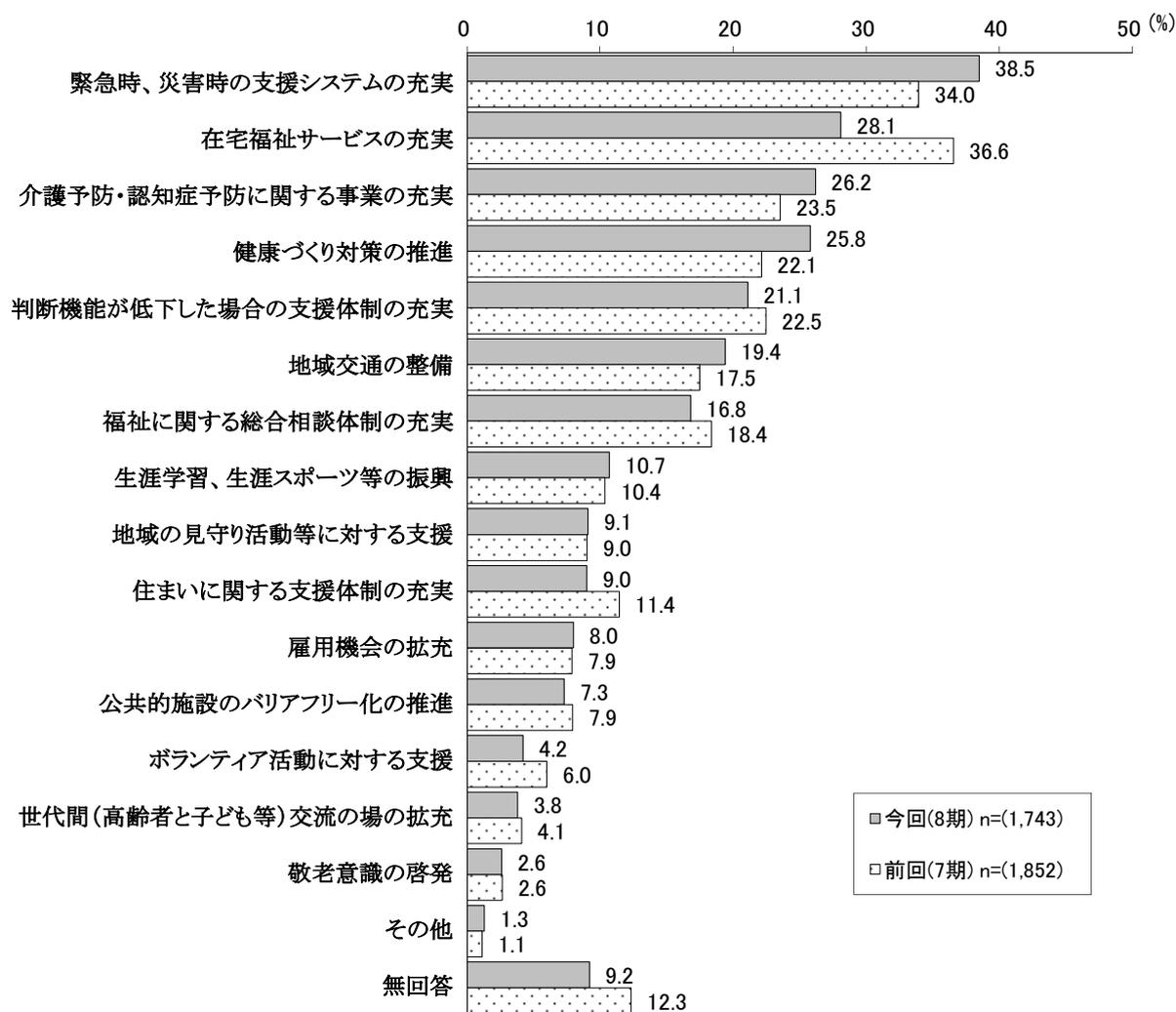
第2号被保険者に対し、介護予防の取り組みの中で、関心があることについて聞いたところ、「適切な運動」（60.7%）が最も高かった。以下、「食生活や栄養のバランス」（49.6%）、「いきがい・楽しみづくり」（47.9%）、「認知症予防」（46.4%）となっている。



【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査・問11(2)】

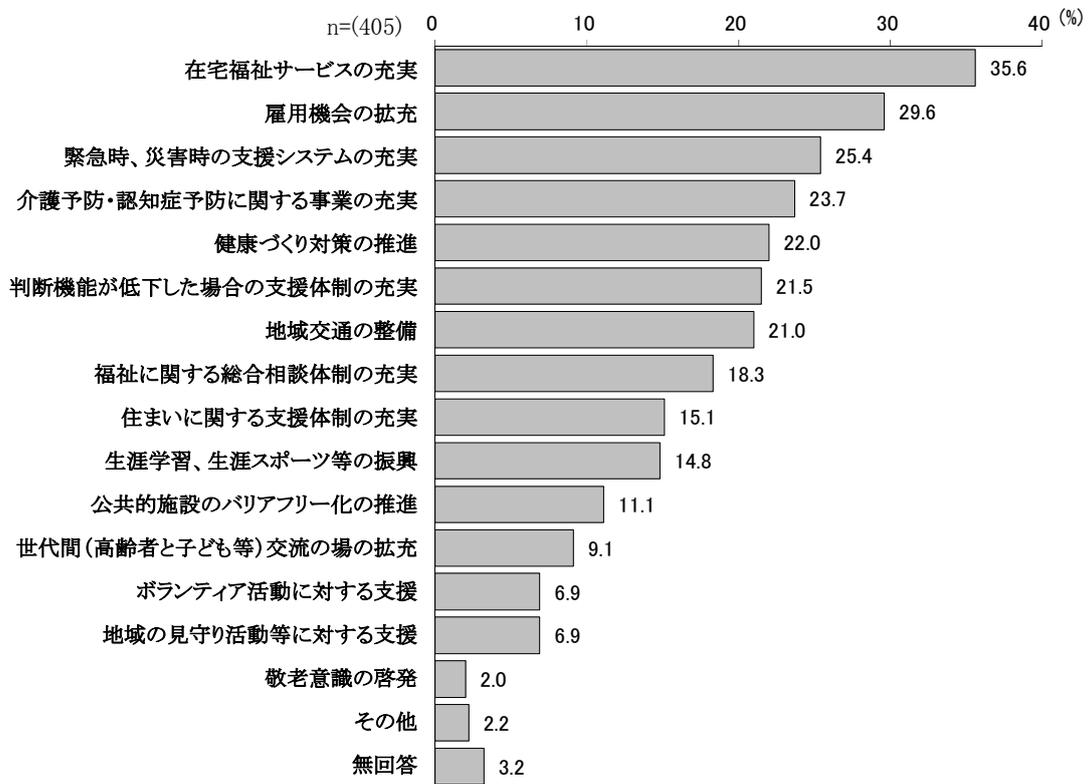
一般高齢者に対し、市の高齢者施策として特に力を入れて欲しいことについて聞いたところ、「緊急時、災害時の支援システムの充実」(38.5%)が最も高かった。以下、「在宅福祉サービスの充実」(28.1%)、「介護予防・認知症予防に関する事業の充実」(26.2%)、「健康づくり対策の推進」(25.8%)となっている。

前回調査と比べると、「在宅福祉サービスの充実」は8.5ポイント低くなっている。



【第2号被保険者向けアンケート調査・問7（2）】

第2号被保険者に対し、市の高齢者施策として特に力を入れて欲しいことについて聞いたところ、「在宅福祉サービスの充実」（35.6%）が最も高かった。以下、「雇用機会の拡充」（29.6%）、「緊急時、災害時の支援システムの充実」（25.4%）、「介護予防・認知症予防に関する事業の充実」（23.7%）となっている。



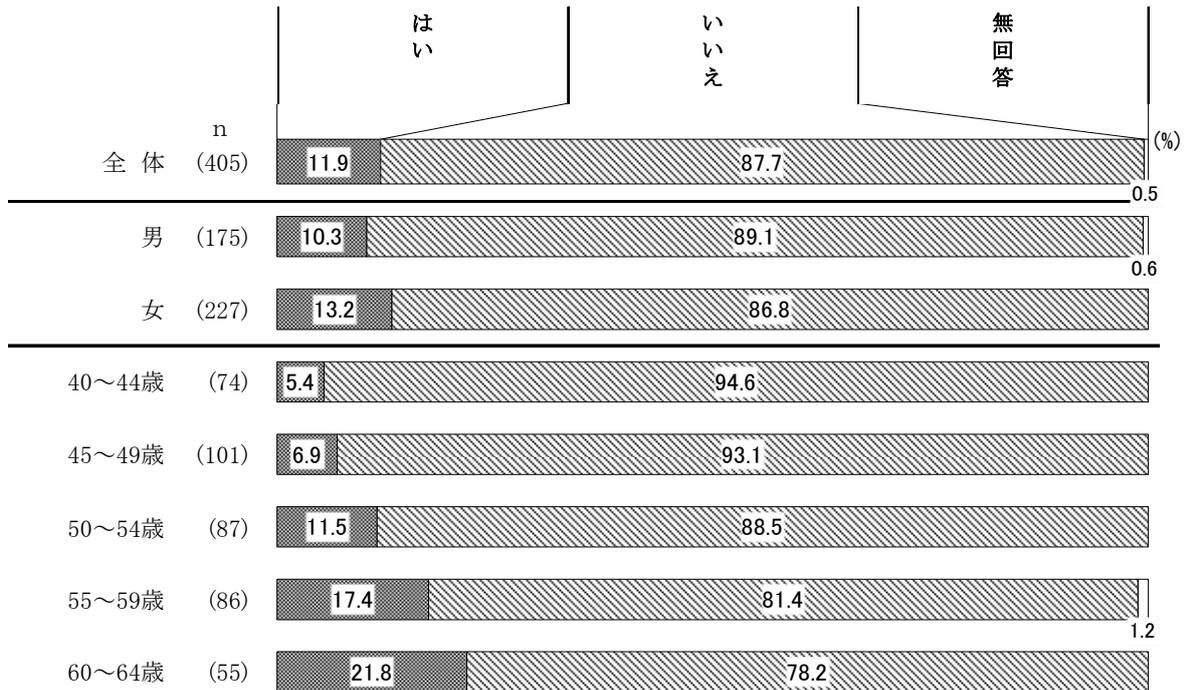
3 介護者（仕事と介護の両立）について

【第2号被保険者向けアンケート調査・問2（1）】

第2号被保険者に対し、現在、介護をしているかについて聞いたところ、「いいえ」が87.7%を占めていた。一方、「はい」は11.9%となっている。

性別で見ると、男性と女性の間には大きな差は見られなかった。

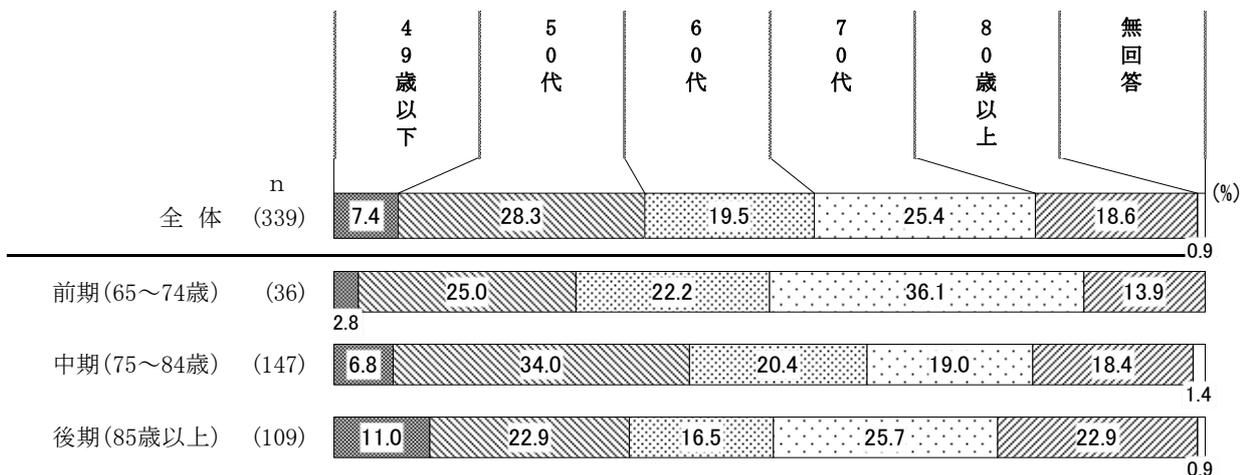
年齢別で見ると、「はい」については60～64歳（21.8%）が全体に比べて高く、年齢が上がるにつれて割合は高くなっている。



【在宅介護実態調査・問5】

被介護者に対し、主な介護者の年齢について聞いたところ、「50代」（28.3%）が最も高かった。以下、「70代」（25.4%）、「60代」（19.5%）、「80歳以上」（18.6%）となっている。

被介護者の年齢別で見ると、介護者が70代以上の割合は、全体では44.0%、被介護者が前期高齢者の場合は50.0%、中期高齢者の場合は37.4%、後期高齢者の場合は、48.6%となっている。



【在宅介護実態調査・問4】

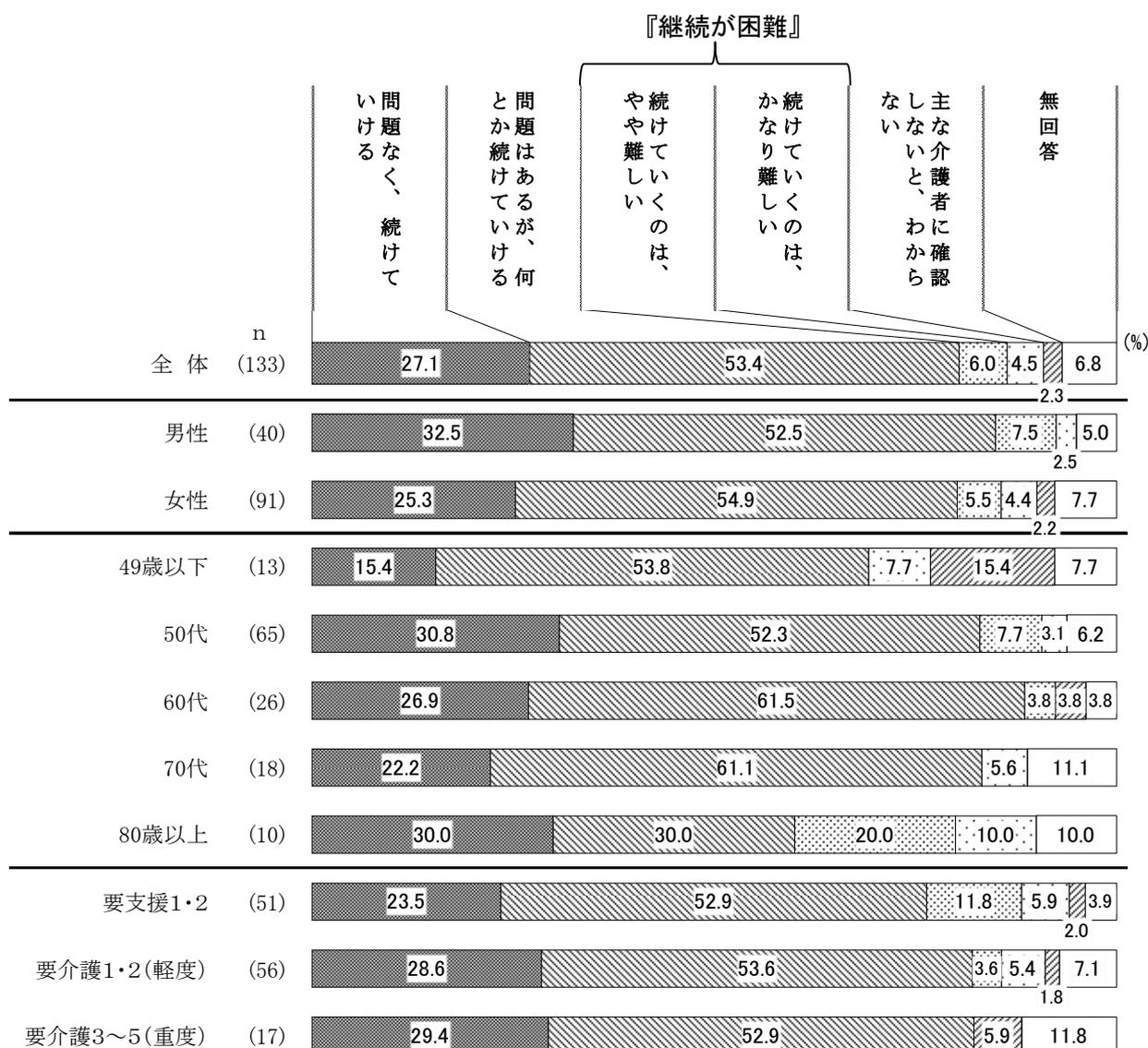
就業中の主な介護者に対し、今後も働きながら介護を続けていけそうかについて聞いたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」(53.4%)が最も高かった。また、「続けていくのは、やや難しい」(6.0%)と「続けていくのは、かなり難しい」(4.5%)を合わせた『継続が困難』は10.5%となっている。

一方、「問題なく、続けていける」(27.1%)、となっている。

主な介護者の性別で見ると、「問題なく、続けていける」については男性(32.5%)が女性(25.3%)より7.2ポイント高くなっている。

主な介護者の年齢別については、一部nが少ないため、参考値とする。

被介護者の要介護度別で見ると、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」合わせた『継続が困難』については要支援1・2(17.7%)が全体に比べて高くなっている。



【在宅介護実態調査・問6】

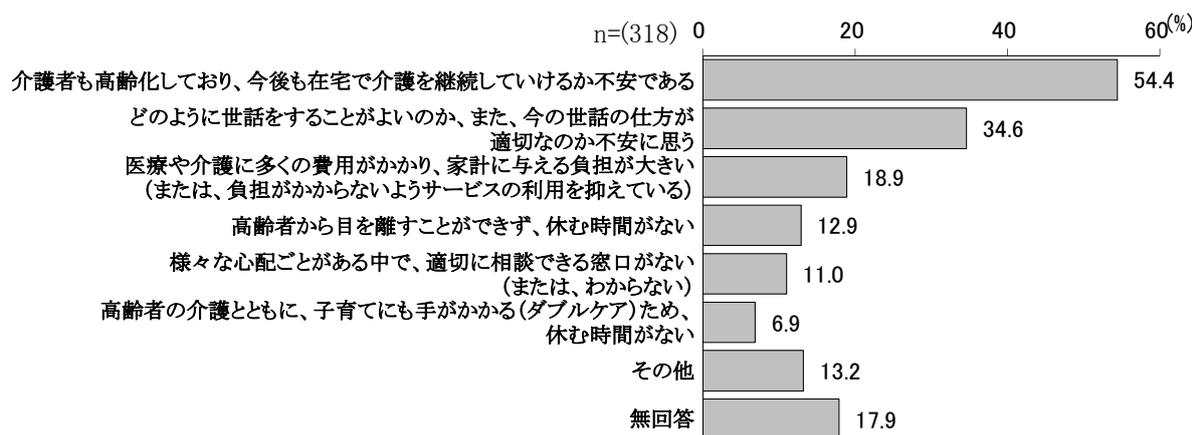
主な介護者に対し、介護や看病などの世話をする人が大変と感じていることについて聞いたところ、「介護者も高齢化しており、今後も在宅で介護を継続していけるか不安である」(54.4%)が最も高かった。以下、「どのように世話をすることがよいのか、また、今の世話の仕方が適切なのか不安に思う」(34.6%)、「医療や介護に多くの費用がかかり、家計に与える負担が大きい(または、負担がかからないようサービスの利用を抑えている)」(18.9%)、「高齢者から目を離すことができず、休む時間がない」(12.9%)となっている。

被介護者の世帯類型別でみると、「介護者も高齢化しており、今後も在宅で介護を継続していけるか不安である」については夫婦のみの世帯(72.1%)が全体に比べて高くなっている。また、「高齢者の介護とともに、子育てにも手がかかる(ダブルケア)ため、休む時間がない」については単身世帯(13.4%)が全体に比べて高くなっている。

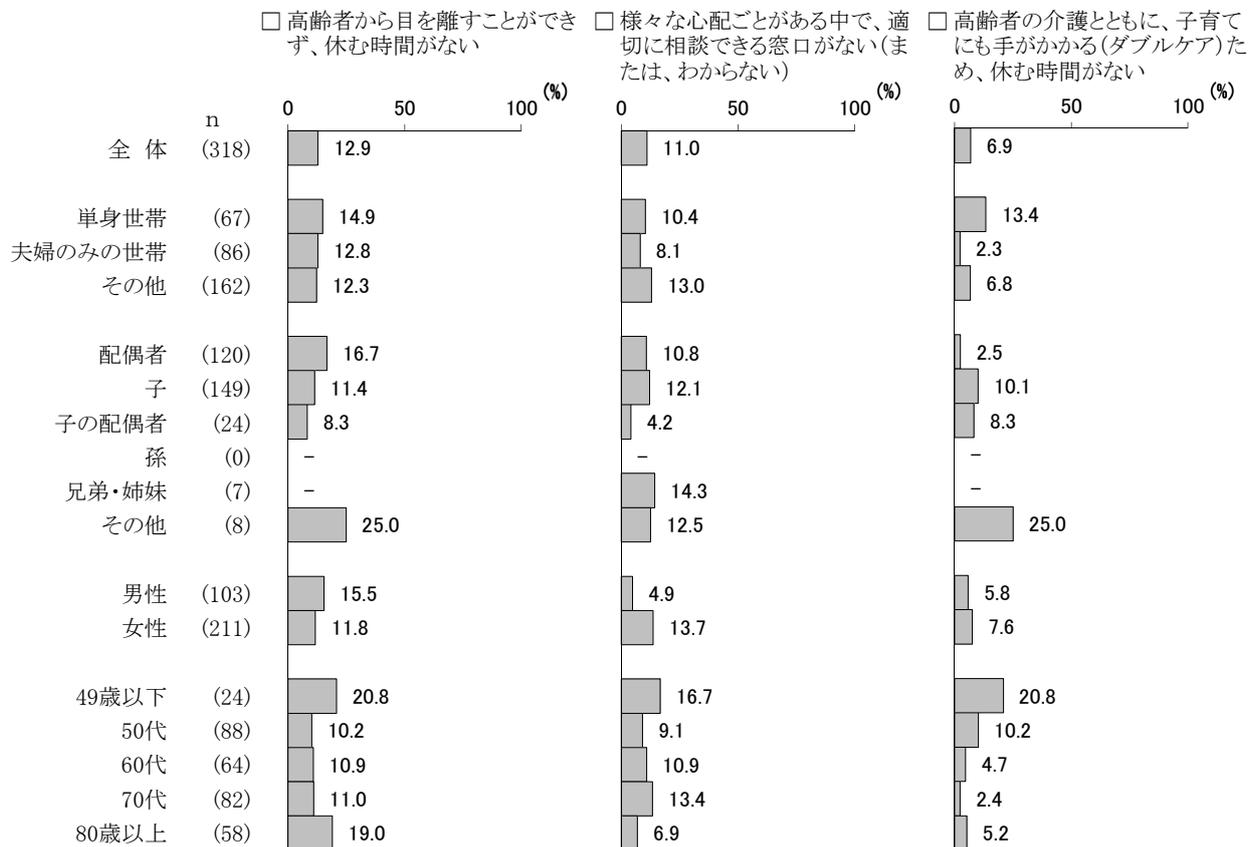
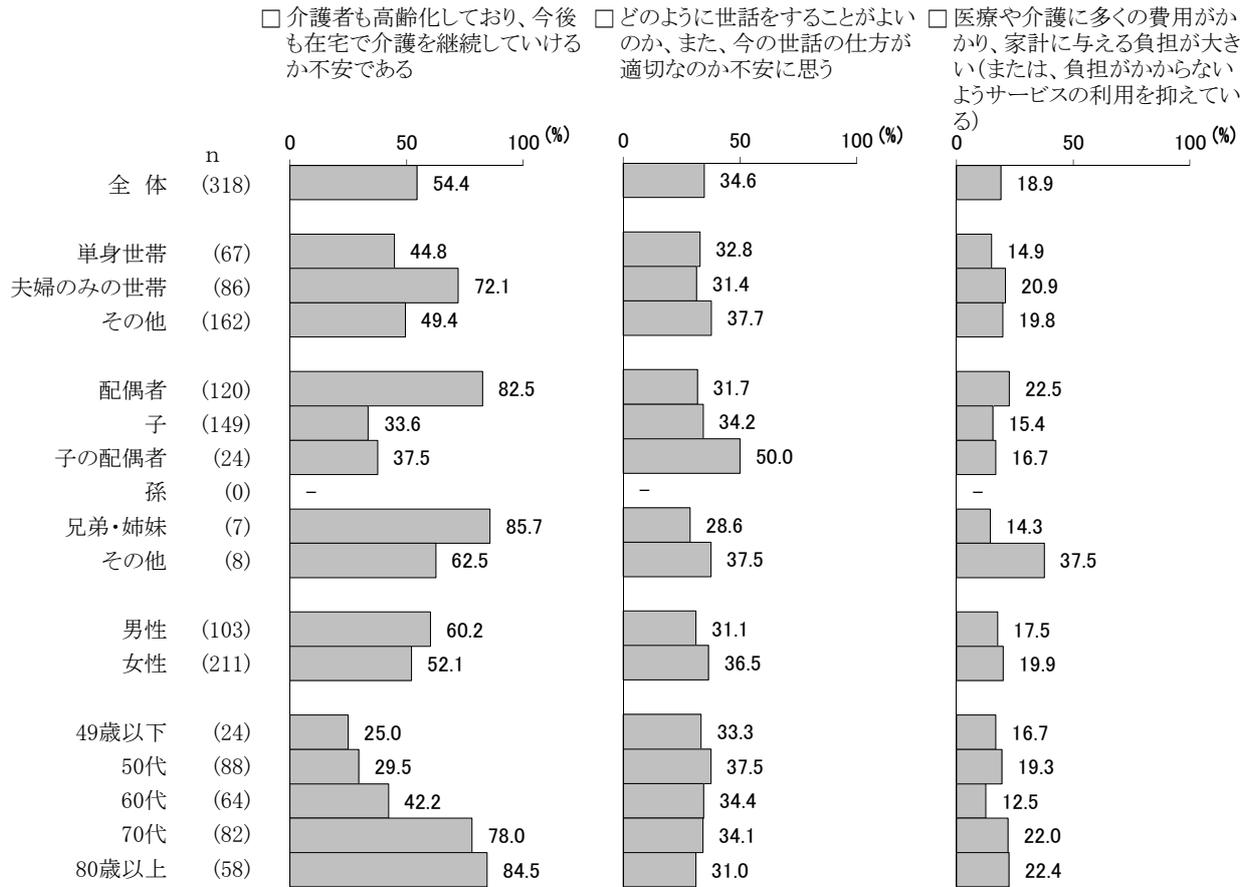
主な介護者別でみると、「介護者も高齢化しており、今後も在宅で介護を継続していけるか不安である」については配偶者(82.5%)が全体に比べて高くなっている。

主な介護者の性別でみると、「様々な心配ごとがある中で、適切に相談できる窓口がない(または、わからない)」については女性(13.7%)が男性(4.9%)より8.8ポイント高くなっている。一方、「介護者も高齢化しており、今後も在宅で介護を継続していけるか不安である」については男性(60.2%)が女性(52.1%)より8.1ポイント高くなっている。

主な介護者の年齢別でみると、「介護者も高齢化しており、今後も在宅で介護を継続していけるか不安である」が80歳以上(84.5%)、70代(78.0%)と、70歳以上で8割前後と高くなっている。また、「高齢者から目を離すことができず、休む時間がない」が80歳以上(19.0%)で全体に比べて高くなっている。



【被介護者の世帯類型／主な介護者／主な介護者の性別／主な介護者の年齢別 上位6項目】

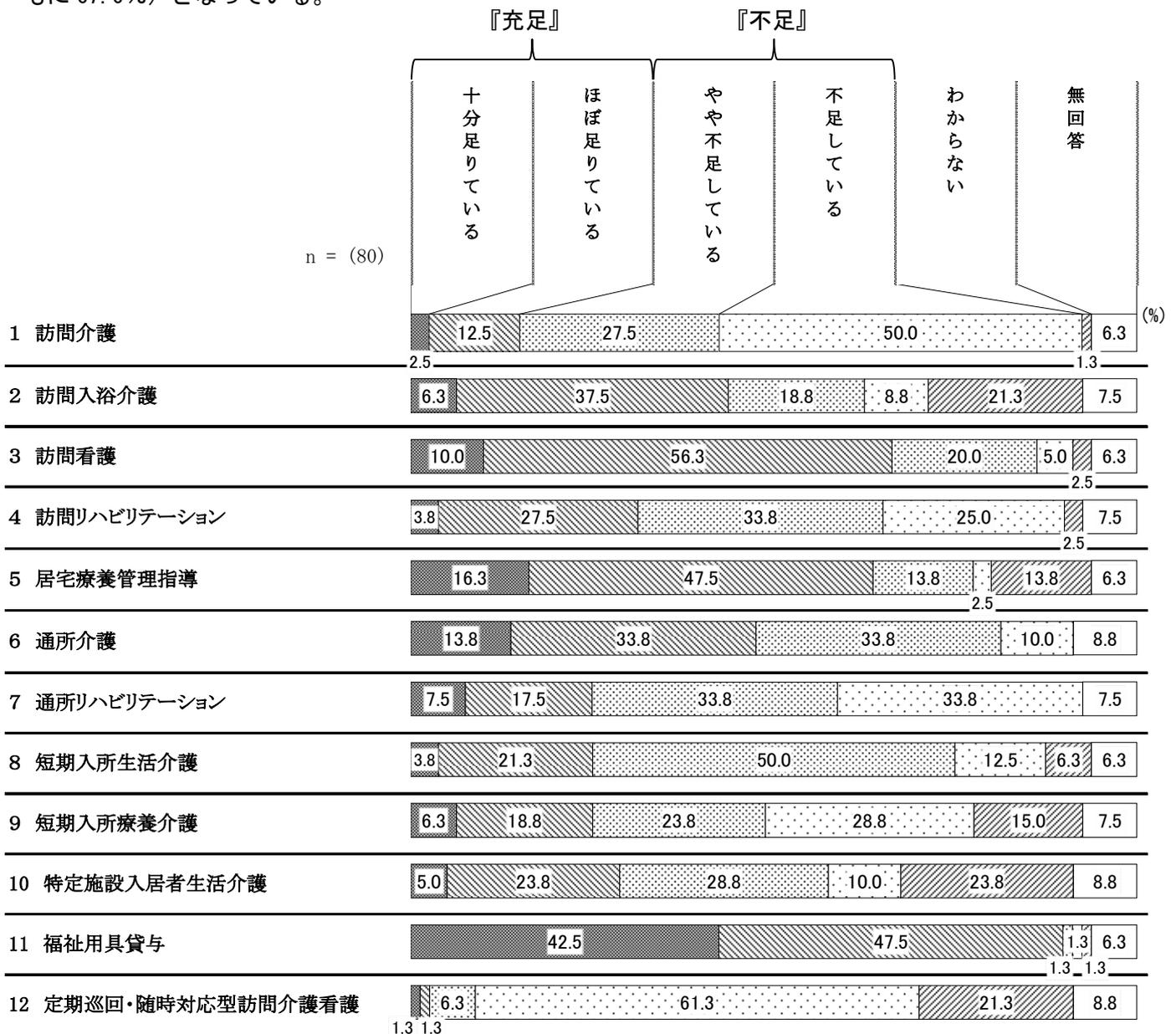


4 各種サービスの提供体制について

【ケアマネジャー実態調査・問2】

ケアマネジャー（個人）に対し、各種サービスの充実度について聞いたところ、「十分足りている」と「ほぼ足りている」を合わせた『充足』と回答した割合が高い項目については、「11 福祉用具貸与」（90.0%）、「3 訪問看護」（66.3%）、「5 居宅療養管理指導」（63.8%）、「6 通所介護」（47.6%）、「2 訪問入浴介護」（43.8%）となっている。

一方、「やや不足している」と「不足している」を合わせた『不足』と回答した割合が高い項目については、「1 訪問介護」（77.5%）、「25 総合事業（訪問型サービス）」（71.3%）、「22 介護老人保健施設」（68.8%）、「7 通所リハビリテーション」・「12 定期巡回・随時対応型訪問介護看護」（ともに67.6%）となっている。



次ページに続く

【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査・問11（1）／第2号被保険者向けアンケート調査・問7（1）】

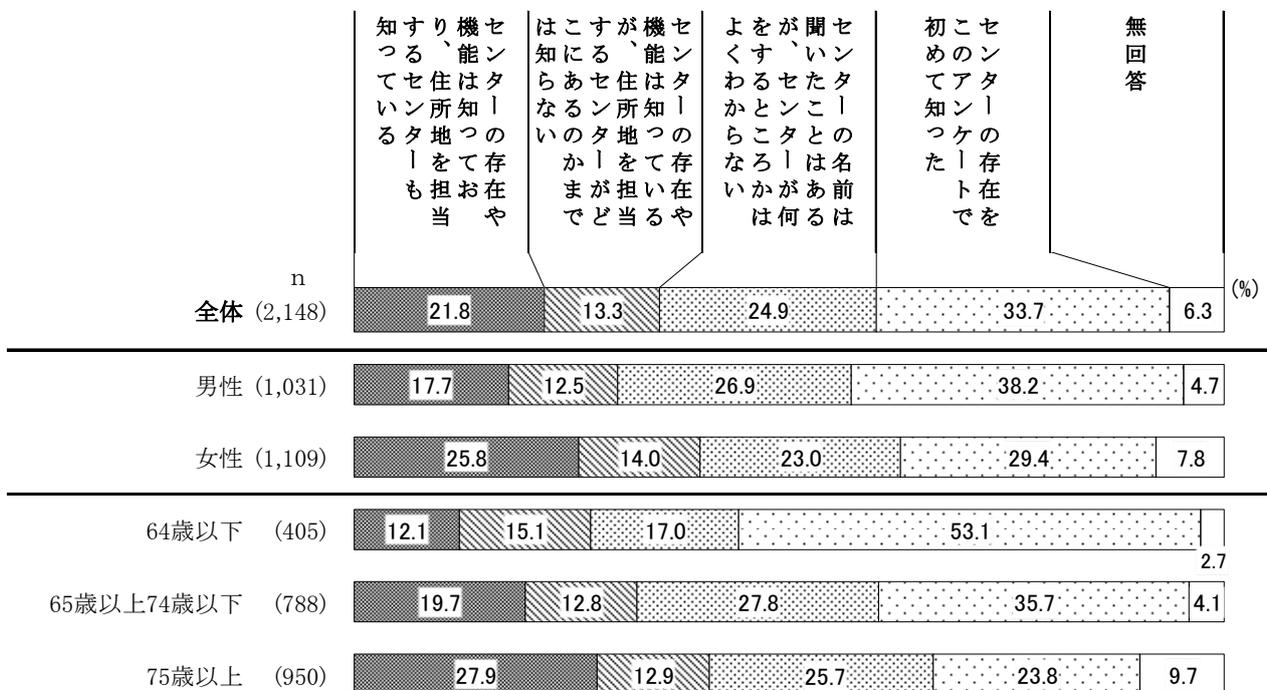
一般高齢者と第2号被保険者に対し、高齢者あんしん相談センターについて知っていることについて聞いたところ、「センターの存在をこのアンケートで初めて知った。」（33.7%）が最も高かった。以下、「センターの名前は聞いたことはあるが、センターが何をするとところかはよくわからない。」（24.9%）、「センターの存在や機能は知っており、住所地を担当するセンターも知っている。」（21.8%）、「センターの存在や機能は知っているが、住所地を担当するセンターがどこにあるのかまでは知らない。」（13.3%）となっている。

性別でみると、「センターの存在や機能は知っており、住所地を担当するセンターも知っている。」については女性（25.8%）が男性（17.7%）より8.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「センターの存在や機能は知っており、住所地を担当するセンターも知っている。」については後期高齢者では27.9%と、年齢が上がるにつれて割合は高くなっている。

性別でみると、「センターの存在や機能は知っており、住所地を担当するセンターも知っている。」については女性（25.8%）が男性（17.7%）より8.1ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「センターの存在や機能は知っており、住所地を担当するセンターも知っている。」については後期高齢者では27.9%と、年齢が上がるにつれて割合は高くなっている。



5 介護人材について

【介護サービス事業所調査（在宅）問2 / （施設・居住）問4】

介護サービス事業所（全体）における、介護職員の在職状況と、採用・離職の状況については、下記のようになっている。

（1）介護職員の総数

	正規職員	非正規職員	合計
在職事業所	37	33	38
在職率	94.9%	84.6%	97.4%
合計	168人	166人	334人
平均	7.3人	7.5人	14.8人

※在職率＝在職事業所÷39事業所（回答総数）

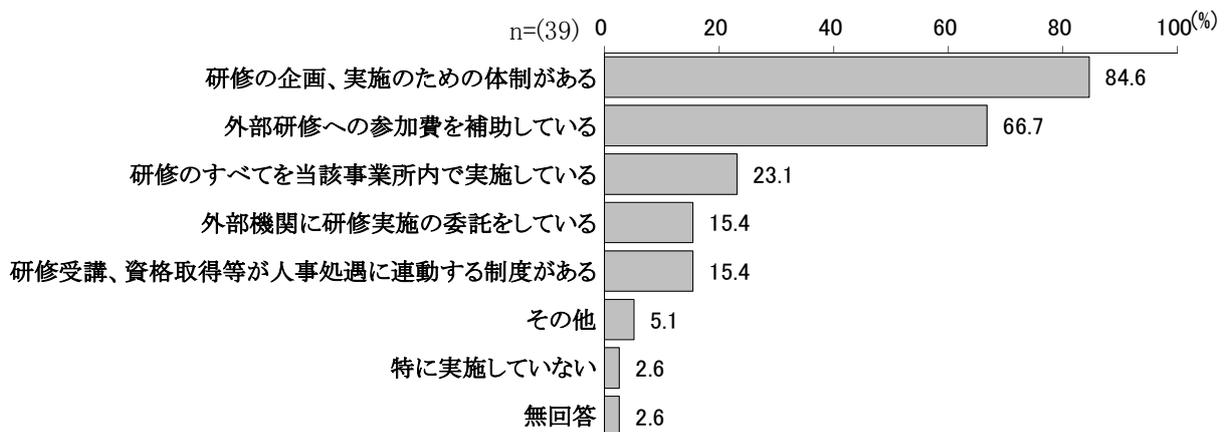
（2）過去1年間の介護職員の採用者数・離職者数

	採用	離職
A 実施事業所	31	29
B 人数合計	151人	113人
C 採用実施率／離職率	79.5%	74.4%
D 採用者／離職者がいた事業所における平均人数	4.9人	3.9人

※採用実施率／離職率＝実施事業所数÷39事業所（回答総数）

【介護サービス事業所調査・（在宅）問4 1（1） / （施設・居住）問5 1（1）】

介護サービス事業所（全体）に対して、事業所が実施している職員への研修、資格取得支援について聞いたところ、「研修の企画、実施のための体制がある」（84.6%）が最も高かった。以下、「外部研修への参加費を補助している」（66.7%）、「研修のすべてを当該事業所内で実施している」（23.1%）、「外部機関に研修実施の委託をしている」、「研修受講、資格取得等が人事処遇に連動する制度がある」（ともに15.4%）となっている。



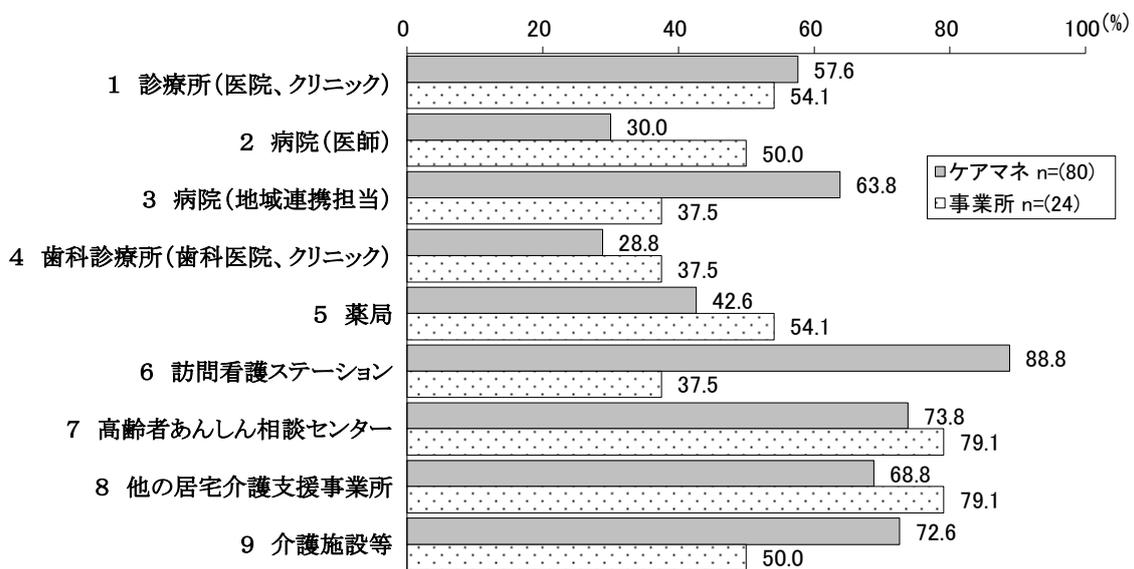
6 医療と介護の連携について

【ケアマネジャー実態調査・問5（1）／介護サービス事業所調査（在宅）問6（1）】

ケアマネジャー（個人）と介護サービス事業所（在宅系）に対して、各医療機関等との連携状況を、「普段からよく連携している」、「ある程度連携している」、「連携が十分ではない」、「ほとんど連携していない」、「必要な対象がなく、連携していない」の5段階で聞いた。下記は、「普段からよく連携している」と「ある程度連携している」を合わせた『連携が進んでいる』と回答した割合について表している。

ケアマネジャー（個人）では、「6 訪問看護ステーション」（88.8%）、「7 高齢者あんしん相談センター」（73.8%）、「9 介護施設等」（72.6%）となっている。

一方、介護サービス事業所（在宅系）では、「7 高齢者あんしん相談センター」・「8 他の居宅介護支援事業所」（ともに79.1%）、「1 診療所（医院・クリニック）」・「5 薬局」（ともに54.1%）となっている。



【ケアマネジャー実態調査・問5（2）／介護サービス事業所調査（在宅）問6（2）】

ケアマネジャー（個人）と介護サービス事業所（在宅系）に対して、医療と介護の連携がとりにくい理由を聞いた。

ケアマネジャー（個人）では、「相手方が多忙で連絡が取りにくい」（63.8%）が最も高かった。以下、「医療・介護関係者相互の認識・理解不足」（60.0%）、「相手方との敷居が高く感じる」（48.8%）、「交流の場がない」（22.5%）となっている。

一方、介護サービス事業所（在宅系）では、「相手方が多忙で連絡が取りにくい」、「相手方との敷居が高く感じる」、「医療・介護関係者相互の認識・理解不足」（いずれも41.7%）が最も高かった。次いで、「交流の場がない」（20.8%）となっている。

